

古民家『聴福庵』 1年間のあゆみ

第2号 2017年3月13日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

『聴福庵』当主あいさつ

私自身が、飯塚の古民家再生を通して飯塚の歴史や文化のことを
学び直しこのまちを大変誇らしく思えるようになり好きになりました。

今まで地元のことを知らず、誰にも語らずにいたことが恥ずかしいこと
だったのだと気づきました。よく日本人は日本のことを何も知らないと
世界では評されます。

ここに日本文化の価値と誇りを教える文化伝承・郷土愛育成の必要性を
ひしひしと感じます。聴福庵の古民家による「場」の伝承は郷土愛と
言う目には見えない大きな「利益」を子どもたちと一緒に創出するの
です。私たちはこれからもずっとこの豊かで美しいまち、日本の風土、
日本文化を遺していきたいと思えます。

子どもたちの安心基地、ここ郷里での聴福庵の実践を通して地域への
恩返しに換えていきたいと思えます。

～まちづくりは好き創り、まちおこしは愛の伝承、まちの宝は子どもです～

神家総本家 聴福庵当主 野見山広明



築120年古民家『聴福庵』



伊藤伝右衛門 (1861~1947)

近代日本を支えた福岡県飯塚

かつて、近代日本を支えてきた福岡県飯塚。

炭鉱のまちとして全国にその名が響き渡っていました。

その立役者の一人 伊藤伝右衛門 (でんうえもん)

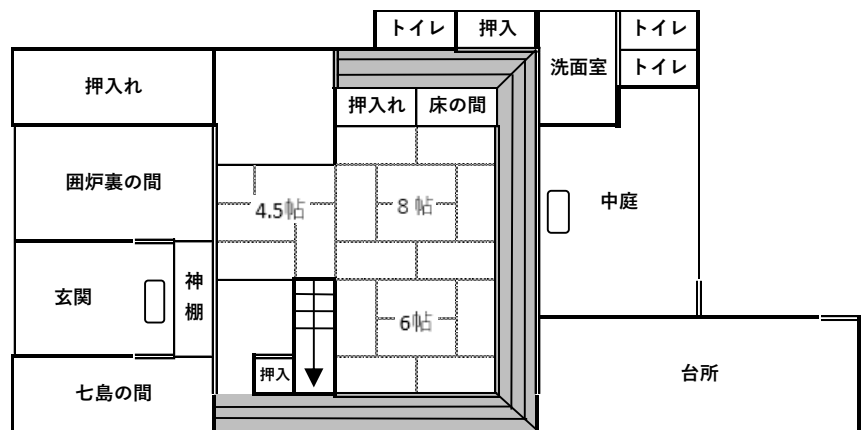
彼は筑豊の炭鉱王と呼ばれ、一代で財を築いたと言われています。

その邸宅の前に、築110年を超える古民家があります。

2016年4月私たちは、この古民家を『聴福庵 (ききふくあん)』と名付け、実践をはじめました。

聴福庵見取り図

1階平面図



1階 囲炉裏の間



1階 大広間

囲炉裏の間から大広間、中庭を眺めるとその開放感に何とも
言えない感覚を覚えます。それは2階も同様で障子を取り外し、
部屋の仕切りを変えることで広くしたり、狭くすることもでき、
用途に応じて部屋を変えることができます。

それは、保育の中で用途に応じて作るゾーンのようなでもあります。
日中は太陽の明かりが差し込み、ゆらゆら揺れる影に眠りを誘われ、
夜になると薄暗い中に灯る明かりが心地よく感じます。季節を感じる
中庭、床の間を飾る色鮮やかな花々。聴福庵にいると明暗のコントラ
ストや静寂さ、冬の寒さも東京では感じられないものがあります。
そんなメリハリが子どもたちにも必要なのかもしれません。



中庭（秋の風景）



2階 客間



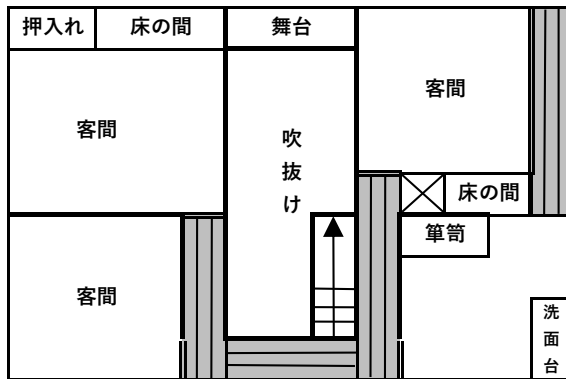
2階 客間



2階 吹抜け

聴福庵見取り図

2階平面図



聴福庵に置いてある物には一つ一つ物語があります。聴福庵と同じ年代の明治、大正のもの。中には江戸時代に使われていた道具もあります。台所にある水屋筆筒は滋賀県、漆器の器は石川県から。

1階のこたつを敷いている部屋の床板は解体前の古民家で天井として使われていた古材です。そのどれもが以前、どこかの家で使われていたものばかりです。

聴福庵沿革

2016年4月1日

- ・ 築110年古民家との出逢い ここを『聴福庵』と命名

2016年6月

- ・ 福岡 八女地区視察（古民家見学等 中島さんの案内）
- ・ 松延工芸見学（桶屋職人）
- ・ 火入れ 竈ご飯づくり
- ・ 特注の銅板 囲炉裏へはめ込む
- ・ 囲炉裏へ灰を入れる

2016年7月

- ・ 市役所職員と聴福庵の活用等打ち合わせ

2016年9月

- ・ 聴福庵合宿（クルー全員 + インターン横田君）
- ・ 柱磨き、囲炉裏での語り、鋳物風呂入浴、炭料理三昧



夜の聴福庵

- ・ 苔庭づくり
- ・ 床へ1トンを超える炭入れ (みやけ保育園 時枝先生参加)
- ・ 大工さん鉄砲ジャッキで傾きを直す
- ・ 恩袋会開始 (月1回開催)

2016年10月

- ・ 近隣の古民家が解体される (古材や襖、酒樽などを頂く)
- ・ 宮司と今後の祭り開催について打ち合わせ
- ・ 押入れ作り、修理 (布団入れ)
- ・ 福岡農園イノシシ除けの柵手入れ
- ・ 高菜2度目の種まき

2016年11月

- ・ 佐野畳店 聴福庵の畳の大きさ計測
- ・ 畳干し
- ・ 古材 床材 柿渋8度塗り
- ・ 年末へ向けお餅つき準備
- ・ 石油ストーブ、炭ストーブ、炭こたつ、縄文土器解禁
- ・ 棟梁と打ち合わせ (台所の構想について)
- ・ 高菜植え替え
- ・ 冬野菜の種蒔き
- ・ 妙見高菜の発送作業



かまどへ火入れ

2016年12月

- ・ 餅つき (歳神様へ鏡餅お供え)
- ・ 畳作りワークショップ (佐野畳店、熊本県八代い草生産者来庵)
- ・ 障子張替え
- ・ 台所板張り、窓枠取り付け作業
- ・ 潤野保育園 木村園長 来庵
- ・ 台所左官作業
- ・ 洋服箆笥蜜蝋で磨く
- ・ 水屋箆笥修理、蜜蝋で磨く
- ・ トイレに窓がはめ込められる
- ・ 幸袋地区会長と祭りの開催等についての打ち合わせ
- ・ 初心会議実施 (ミッションパートナー来庵)
- ・ 年末 許斐神社掃除



床下に潜り炭を敷きつめました



柿渋で8度重ね塗り

2017年1月

- ・ 恩袋会 (修復が進んだため初の聴福庵での実施)



苔庭造り



年末の大掃除 障子張替え



畳作りを体験



歳神様をお迎えるため餅つき

- ・味噌仕込み（恩袋会のメンバーとご一緒に）
- ・厨房に畳を敷く
- ・七島畳 囲炉裏部屋敷く
- ・呼吸大学 宮本ご夫妻 来庵・ご宿泊

2017年2月

- ・お手洗いの建具入れ替え、柿渋・渋墨塗り
- ・お手洗いの壁紙を和紙へ張り替え

- ・裏口の建具入れ替え

- ・撃鼓神社 宮司面会

（飯塚の歴史についてインタビュー、聴福庵祈祷依頼）

- ・恩袋会 幸袋自治会長 4名来庵

- ・原田学園 原田様来庵

2017年3月

- ・玄関建具 べんがら塗り

- ・竹虎 4代目山岸様、呼吸大学 宮本ご夫妻来庵・ご宿泊

- ・恩袋会（正田邸）

聴福庵を通して感じること

聴福庵との出会い、それはクルーにとっても突然の出来事でした。

誕生日を迎えた野見山（当主）が「皆に報告がある！」と

口を開くと古民家の写真が次から次へと映し出されました。

「まさか、カグヤが古民家再生！？」と突然の発表に驚きました。

そして、あれからもうすぐ1年が経とうとしています。

自分たちの家を自分たちの手で、掃いて・拭いて・磨いて、

その度に『聴福庵』のことが好きになります。変化の過程を写真に

撮りため、動画やフォトブックにして見て頂いたり、今では多くの方

に来庵頂けるまでになりました。それもこれもカグヤの目指す理念に

共感して下さり、多くの方のお力をお借りできたお陰です。

『聴福庵』の沿革はまさにその想いがまた一つ、また一つと刻まれた

証でもあります。これからどんな物語が『聴福庵』ではじまるの

か分かりませんが、子どもたちがいつも明るく笑っている、

笑いの絶えない、そんな家を目指していきたいのです。

（報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢）

お問い合わせ先

株式会社カグヤ

東京都新宿区西新宿 3-2-11

新宿三井ビルディング 2号館 10階

tel:03-5909-7155